

訂正表

イラストによるお母さんへの 子育てのアドバイスと育児相談 第2版

予防接種法の改正にともない、次のように追加・改訂いたします。

解説編

p.40 左段 20~ 23行目

【旧】
BCGは結核予防法による接種で、改訂によりツ反疑陽性がなくなりツ反陽性未満（＜10mm）の反応者はBCG接種対象となっていたが、平成15年度から変更がある（次の各論を参照）。

【追加】
平成19年4月現在、結核予防法は廃止となり、BCGは予防接種法に組み入れられた。

p.41 左段 5~ 1行目 BCG、ツ反【接種時期】

【旧】
従来は4歳未満、小学校1年・中学校1年（定期健診）のツ反で陰性者に接種していたが、平成15年4月からの結核予防法改定で7歳および13歳の定期健診（ツ反）は除かれ、この時期のBCG接種もなくなった。今後はさらに、生後6か月までにツ反なしで1回だけ接種することになる予定。

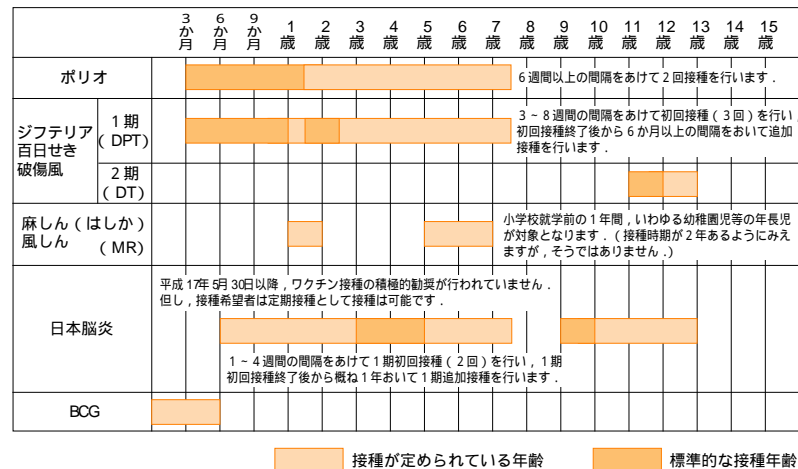
【追加】
現在、BCGの定期接種は生後6か月までにツ反を行わずに接種することが定められた。このため、接種10日以内にBCG接種局所の発赤・腫脹および針痕部位の膿胞化などを呈するコッホ現象が認められる可能性がある。コッホ現象出現時の対応を被接種者に説明しておくことと、これを診た場合の対処を確認しておく必要がある。

イラスト編

p.33 何をいつごろに接種するとよいか

【改訂】

（予防接種法 平成19年4月現在）



p.34 BCG・ツ反

【旧】

- ・BCGはウシ型結核菌を弱毒化した生菌ワクチンです。
- ・結核菌に感染していない時に接種します。結核菌に感染しているか否かを見る方法としてツベルクリン反応（ツ反）が行われます。
- ・接種後2~3週間で針のあとが赤くふくらみ、か月後にはカサブタができてなくなります。数か月後に再び赤くなることがあります。
- ・ときに接種側のわきの下のリンパ節がはれることがあります。大きくはれたり、皮膚が赤くなったら医師に診てもらいましょう。

【追加】

BCGは、定期接種として生後6か月までに1回のみ行うことになりました。この場合、ツ反をせずに接種するので、すでに結核菌に感染している時に見られるコッホ現象に注意しましょう（コッホ現象は予防接種のパンフレットなどに記載されています）。

（2007年4月現在）